

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月11日現在

機関番号：82602
 研究種目：基盤研究（c）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22592573
 研究課題名（和文）
 ：地域医療システム構築における保健所保健師の連携機能に関する研究
 研究課題名（英文）
 ：Study on the Functions of Collaboration Among Public Health Nurses at
 Public Health Centers in Development of a Community Health Care System
 研究代表者
 成木 弘子（NARUKI HIROKO）
 国立保健医療科学院 ・ その他 ・ 統括研究官
 研究者番号：30237622

研究成果の概要（和文）：

地域医療連携体制の構築における保健所保健師の連携機能の特徴を明らかにすることを目的とした。その結果、面接調査では【連携づくり関係者の温度差の是正】等、5つのカテゴリと13の概念からなる特徴を明らかにした。質問紙調査は「関係機関が主催する多職種・専門職の研修や集まりに参加する（84.5%）」等の関与が多く見られた。これらの結果から、地域医療連携における保健所保健師の機能の現状が確認され、教育研修の充実が必要であると示唆された。

研究成果の概要（英文）：

The purpose was to clarify the characteristics of the functions of collaboration among public health nurses at public health centers in developing a collaborative system for community health care. As a result, characteristics consisting of five categories and 13 concepts were clarified, including “correction of temperature differences among people relating to collaboration development” from interview surveys. Involvement including “participation in seminars and meetings for different occupations and professionals hosted by related organizations (84.5%)” was also frequently observed in questionnaire surveys. Based on these results, functions of public health nurses at public health centers in collaboration for community health care were confirmed and need of education and training was indicated.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200	0	1,200
2011年度	1,100	0	1,100
2012年度	1,100	0	1,100
年度			
年度			
総計	3,400	0	3,400

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学、地域・老年看護学

キーワード：地域医療、システム、連携、保健所保健師、機能

1. 研究開始当初の背景

上昇を続けている我が国の高齢者率は、平成24年には23.3%となり、平成37年には30%にも至ると予想されている。何歳になっても健康でQOLの高い生活を送ることは、誰しもが抱く願いであり、国はその実現を目指して医療制度改革に着手している。特に保健医療システムについては、健康づくり・疾病予防の推進を図るとともに、医療提供体制における機能分化・集約化等を進めることにより国民が安心・信頼できる質の高い医療サービスが効率的に提供される仕組みへと見直すこととしている。

地域保健医療システムづくりは、保健・医療・福祉のそれぞれの分野で構築されつつあるが、様々な分野や当事者以外の健康な住民まで包括した地域医療システムの構築は立ち後れている状況である。4疾患（糖尿病、脳卒中、心疾患、がん）に関しては、病院から地域への連携の一つの方法としてクリティカルパスの活用が開始されているが、内容の充実は立ち後れている。また、地域連携を構築する役割は、保健所が担うこととされている中で様々な専門職のチームの内、その役割を担う職種は保健師が多い。筆者が21年度に研究メンバーとして参加した「地域医療連携体制の構築と評価に関する研究（平成21年度地域保健総合推進事業）」の全国調査では、保健所が推進している地域保健連携の担当者は、保健師が約6割を占めていることが明らかになっている。しかし、様々な専門職からなる地域連携推進チームにおける保健師等、各専門職の役割は明確になっていないことが示唆された。また、行政保健師の行う“連携”機能は、保健師の重要な機能の一つであることとされており、「地域における保健師活動指針（平成10年4月通知）」において“連携・調整”は、行政保健師活動の一つであると位置づけられている。同指針（平成15年改訂）では、“連携・調整”機能を強化する研修の重要性が示されている。しかし、保健師の“連携”の定義や、保健師が連携を取るための具体的な方法や内容に関しては、コンセンサスを得るには至っていない。特に、地域医療システムの構築において具体的な機能が明らかにされないまま、その重要性が示唆されている現状である。

このように、地域医療システムの“連携”づくりを推進する行政保健師の機能は明確にされていない状況であった為にこの機能を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、地域医療システムづくりを推進する保健所保健師の連携機能を探求することを目的として、以下の二つの目標を設定した。

・目標1：地域医療システム構築を推進する役割を担っている保健所保健師が、関係者とどのように連携づくりを行っていくのか、そのプロセスを明らかにする。

・目標2：地域医療システムの推進役割を担っている保健師の連携機能の特徴を統計的に明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 目標1に関しては、半構成的な個別インタビューを13名の保健所保健師に実施しデータとした。インタビュー項目は、事業の担当をして実施したこと、感じたこと等である。分析方法は、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。インタビューデータを読み込み、文章の内容にそって研究テーマに基づいて概念を生成しカテゴリー化し、最終的に構造としての概念図を作成した。

(2) 目標2の研究方法は、現状を把握するための横断研究であり、対象施設は、47都道府県の県型保健所372カ所、調査対象者は、当該保健所の地域医療連携に関する業務を担当する保健師1名各所1名。調査方法は、郵送による質問票による調査とし、分析は、各項目を類型化し集計した。

また、倫理的配慮として、研究代表者が所属する機関の研究倫理審査委員会の承認を受るとともに、インタビュー調査時は文書と口頭にて説明をし承諾をえた。アンケート調査では、文書での説明を実施し返送をもって承諾と判断した。

4. 研究成果

(1) 研究目標1に関する結果

地域医療連携づくりにおける保健師

の機能の構築プロセスに関するインタビューの結果、13の概念と4つのカテゴリーを見出した。以下、カテゴリーは【 】, 概念は〈 〉と記す。

①保健師は、保健師を含めた保健所の当事業系のメンバー間で【連携づくりへの保健所の方策の共有】をすると共に、【保健所長の揺るぎないリーダーシップの発揮】を受け入れ、【連携づくり関係者の温度差の是正】をしながら保健師自身が【連携づくりを保健師活動として取り組む】態度を形成し地域連携システムの構築を推進していた。

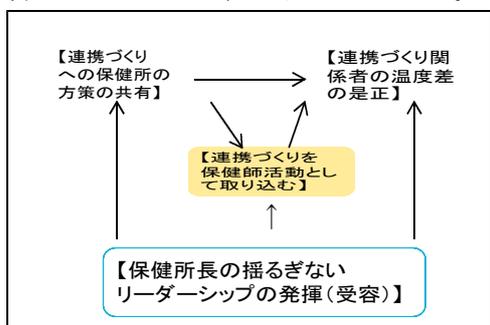


図1 保健所保健師の連携機能

②カテゴリーの一つ目は【連携づくりへの保健所の方策の共有】であり、連携構築の担当部署のメンバーと保健所としての方策を共有し、チームの一員として関わった保健師の態度である。

〈弱い立場の職種の下支え〉〈関係者のトップ争いをコントロール〉〈関係者を尊重する支援〉〈保健所チームとしての関わり〉であるとの保健所の支援態度を共有し、保健師のチームの一員として支援した態度。例えば〈保健所チームの関わり〉では「看護職じゃないとできないことだけ担当し、後は事務職で回していこうっていう・・・部署として室長と詰めて方針を下す。」の発言がみられた。

③【保健所長の揺るぎないリーダーシップの発揮】地域医療連携体制の構築を推薦するリーダーとしての保健所

長の態度。保健所長が連携作りにおける多期間の役割等の〈長期展望を示す〉こと〈医師の立場の活用〉をしながら連携構築への協働を〈組織内外への根気よい働きかけ〉【保健所長の揺るぎないリーダーシップの発揮】をすることが保健師などに影響を与え、システムの構築を推進していった。〈長期展望を示す〉の例としては、「所長の方針ですね。きちんと最初から“最終的に事務局は移設”と出し続けた」。

④【連携づくり関係者の温度差の是正】様々な立場の違いや利害の違いを是正し協働関係を構築した状態。関係者の〈置かれた立場による温度差〉がある状態を〈立場を越えた歩み寄り〉を実現することで〈連携パスの完成〉に至るという【連携づくり関係者の温度差の是正】が実現した状態である。例) 〈立場を超えた歩み寄り〉では「関係者お一人とお話をする、割にみんな積極的な方、ただ、一緒になってどうこうっていうのがなかなか難しい・・・誰かが間に入れば、折り合いもつけられる・・・」

⑤【連携づくりを保健師活動として取り組む】連携づくりを“保健師活動”として位置づけ積極的に関わっていく様になった保健師の態度の変化。保健師自身は、〈覚悟を決めての事業への参加〉し、〈集団を切り口とした保健師活動の体験〉をしていく中で〈保健師としての自負〉を得て【連携づくりを保健師活動として取り組む】態度に至った保健師の態度の変化の様相である。カテゴリーの〈覚悟を決めての事業への参加〉の発言を例に挙げると「地域にこれだけ大変な状況があると、でもまとめる音頭がどこにもなくて、保健所に相談が来ている。やるしかない

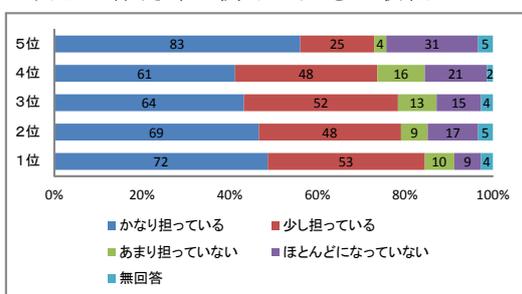
と・・・」であった。

(2) 目標2に関する質問紙調査結果

地域医療連携づくりにおける保健所保健師の関与の調査では、回答数292(78,8%)、回答した中で「保健所が医療連携に関与している219(75%)、関与していない73(19.7%)」、関与している保健所の中で「保健師が関わっている」と回答したものは148(67,6%)であった。保健師の平均年齢49.2歳、事業担当平均年数2.3年、職位では係長級49名(33,1%)であった。

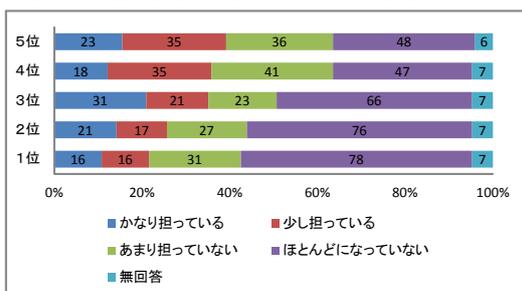
①保健師の関与で多かった(かなり担っている、少し担っている)項目の上位5つは、「1位：関係機関が主催する多職種・専門職の研修や集まりに参加する125人(84.5%)」「2位：会議や作業部会のメンバーの意思決定を尊重する119人(79.1%)」「3位：関係機関の長と連携会議開催前後に連絡を取ったりする109人(73.6%)」「4位：調査のデータなどの情報を参加者の誰でもが理解しやすいようにする116人(78.4%)」「5位：関係者への研修会の当日の運営をする108人(73.0%)」である(表1)。

表1：保健師の関与が大きい役割



②保健師の関与で少なかった(あまり担っていない、ほとんど担っていない)項目で上位5位を表2で示す。

表1：保健師の関与が少ない役割



関与の程度が少なかった事柄は、「1位：住民への説明会で実際の説明をお

こなう109人(73.6%)」「2位：住民への説明会の会場の準備や案内を発送・発信する103人(69.6%)」「3位：住民の説明会や説明用パンフレットの作成の企画をする89人(60.1%)」「4位：関係機関と協議を重ねて評価指標を追加・修正する88人(59.5%)」「5位：この事業に用いる評価指標を検討し設定する84人(56.8%)」であった。

③従来重要とされてきた「地域診断や個別事例の分析などへの関わり(担っている：41.2%)」「福祉職など立場が弱い者が連携に必要な情報を理解しやすいように加工する(担っている：50.8%)」「保健所で有している疾病統計などを用いて評価指標を収集する(担っている：39.2%)」と予想より少ない結果であった。

(3) 総括

地域医療連携体制づくりは、事業担当保健師、事業担当事務職、保健所長などがチームとして関わっていくものであり、組織外の連携づくりの前提として組織内の連携づくりが不可欠であると考えられた。保健師に取っては集団そのものへのアプローチであり、その体験は保健師の地域を動かす力量形成として重要であることが示唆された。

また、保健所保健師の活動の特徴を統計的に捉えると、まんべんなく発揮されている訳ではなく、保健所保健師の機能には発揮されている側面と不足している側面があることが確認された。特に地域診断及び評価に関わる調査等への関わりが少なく、保健師活動全般に弱い機能と一致している。教育研修において強化する必要があると考えられる。

今後の課題として、地域保健医療連携システムの構築に関わる保健師以外の職種の機能と比較し、保健師の機能をより明確にする必要がある。また、保健師の連携機能に関して、他のチームメンバーの視点から捉える必要もあると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計1件)

①成木弘子、地域医療連携体制構築に

における保健所保健師の支援態度の形成
過程、第10回日本ヘルスプロモーション
学会学術大会、2013.

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

成木 弘子 (NARUKI HIROKO)

国立保健医療科学院・その他

・統括研究官

研究者番号：30237622

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者

星 旦二 (HOSHI TANJI)

首都大学東京

・都市環境科学研究科・教授

研究者番号：00190190

以上